第57回全日本大学男子選手権大会

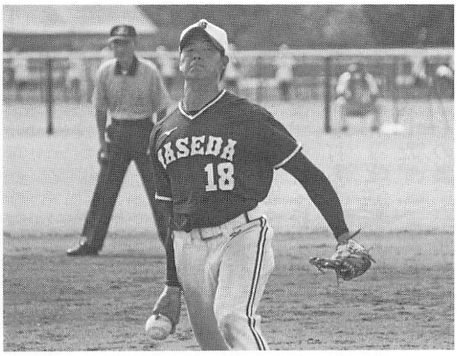
令和４年９月10日（土）～12日（月）　富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

環太平洋大学（岡山）

６年ぶり３回目の王座へ

記録提供　富山県協会記録委員会

標記大会は今年も富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場を会場に開催され、全国各ブロックの代表チームが「大学日本一」の座をかけ、3日間にわたり熱戦を展開。



大学王者をめざし、「熱き戦い」を繰り広げた！

未だ新型コロナウイルスの影響が懸念される中ではあるものの、全日本大学連盟、大学スポーツ協会（ＵＮＩＶＡＳ）、富山県協会、地元自治体、地元関係各位のご支援・ご協力により、無事全日程を終了することができた。

天候にも恵まれ、「さすが、男子ソフトボール！」と感じさせるスピーディーかつ迫力満点の熱戦・激闘を勝ち上がり、ベスト4に名乗りを上げたのは早稲田大（東京）、環太平洋大（岡山）、岐阜聖徳学園大（岐阜）、京都産業大（京都）の4チーム。それぞれが最終日、大学男子の「頂点」をかけた最終決戦に挑んだ。

〈準決勝〉

早稲田大学	0	0	0	0	0	0
環太平洋大学	0	1	0	5	2x	8

※大会規程により5回得点差コールド

（早）●稲垣－尾松

（環）○景山－岩松

▽本大城（環）

三植田（環）

二轉法輪（環）

〔審〕P花木　1岡田　2作道　3中川

〔記〕松本

環太平洋大は2回裏、3連続四球等で満塁と攻め立て、一死後、9番・木之本がレフト前タイムリー。三塁走者を迎え入れ、1点を先制すると、1点をリードしたまま迎えた4回裏にも四球、ヒットで無死一・二塁とし、代打・植田がレフト線へ走者一掃のタイムリースリーベース。さらにワイルドピッチで1点を加えた後、ヒット、内野ゴロ、ワイルドピッチで一死三塁と再びチャンスを作り、3番・奥間がレフト前タイムリー。その奥間も盗塁を仕掛け、これに捕手の悪送球が絡み、三塁まで進塁。4番・谷口のライトへ

の犠牲フライで生還し、この回一挙5点を追加した。

環太平洋大は続く5回裏にも一死二塁から8番・大城がトドメの左越ツーランを叩き込み、ここで大会規程により5回得点差コールドが成立。試合は予想外ともいえる「一方的な展開」となり、8−0で圧勝した環太平洋大が6年ぶりの決勝進出を決めた。

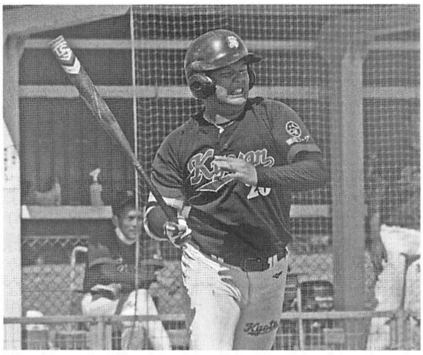
《準決勝》

岐阜聖徳学園大学	0000200	2
京都産業大学	0100030x	4

〔岐〕●山本−淀川
〔京〕○内谷−清水
〔審〕P丸田 1二塚 2山田 3山岸
〔記〕石田

京都産業大は2回裏、一死から連続四球で一・二塁とすると、8番・南埜のセカンドへの当たりが相手守備の乱れを誘い、この間に二塁走者が一気に生還。1点を先制した。

5回表に自らの守備の乱れで2点を失い、逆転を許した京都産業大だったが……迎えたその裏、四球、内野安打で無死一・二塁とし、一死後、3番・三澄が三遊間を破るタイムリーを放ち、同点。なお一・二塁の好機が続き、ダブルスチールで二・三塁と攻め立てると、4番・清水はショートゴロに倒れたが……この間の一瞬の隙を突いて三塁走者が本塁突入。この思い切った走塁に焦った一塁手の本塁送球が悪送球となり、二塁走者もホームインし、大きな2点を追加。結局この回に挙げた得点が決勝点となって京都産業大が4−2で勝利を収め、27年ぶりの決勝へ駒を進めた。


京都産業大が久々の決勝進出！

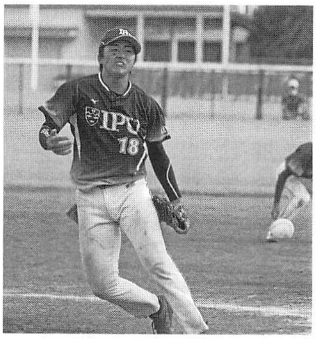
《決勝》

環太平洋大学	0100214	8
京都産業大学	0001001	2

〔環〕井上・○景山−岩松
〔京〕●内谷−清水
▽本岩松（環）南埜（京）
二福山（環）妹背（京）
〔審〕P笹野 1竹田 2利田 3原井
〔記〕林

環太平洋大は2回表、二死二塁から7番・岩松の三遊間を破るタイムリーで1点を先制。4回裏に同点に追いつかれたが、その直後の5回表、四球、バントヒット、送りバントで一死二・三塁とし、代打・植田の一・二塁間を破るタイムリーで勝ち越しに成功。続く4番・谷口にも三遊間突破のタイムリーが飛び出し、リードを2点に広げた。勢いに乗る環太平洋大は6回表にもこの回先頭の7番・岩松が「会心の当たり」の左越ソロホームランを叩き込み、1点を追加。7回表には相手守備の乱れと代打・福山の走者一掃のタイムリーツーベースで一挙4点を加え、勝利を決定づけた。

守っては、井上、景山の投手リレーで京都産業大の反撃を2点に抑え、6年ぶりの「歓喜」爆発！環太平洋大が8−2で快勝し、3回目の「大学日本一」に輝いた。


環太平洋大、6年ぶり３回目の「インカレ制覇」！王座奪還!!

第57回全日本大学男子選手権大会

No.	大学	都道府県	1回戦
1	日本体育大	東京	9
2	関西大	大阪	3
3	徳島大	徳島	0
4	早稲田大	東京	11
5	東北大	宮城	3
6	大阪体育大	大阪	10
7	中京学院大	岐阜	2
8	神戸学院大	兵庫	5
9	福島大	福島	0
10	同志社大	京都	7
11	中京大	愛知	13
12	広島経済大	広島	1
13	城西大	埼玉	3
14	九州共立大	福岡	2
15	国士館大	東京	0
16	環太平洋大	岡山	5
17	信州大	長野	0
18	大阪産業大	大阪	8
19	広島国際学院大	広島	1
20	中央大	東京	11
21	岐阜聖徳学園大	岐阜	7
22	熊本学園大	熊本	0
23	愛知学院大	愛知	6
24	愛媛大	愛媛	2
25	国際武道大	千葉	2
26	立命館大	京都	1
27	東海大	愛知	0
28	京都産業大	京都	4
29	東京理科大	千葉	3
30	九州産業大	福岡	5
31	富山大	富山	0
32	福岡大	福岡	11

2回戦：日本体育大 3−4 早稲田大／大阪体育大 2−9 神戸学院大／同志社大 5−12 中京大／城西大 0−7 環太平洋大／大阪産業大 2−4 中央大／岐阜聖徳学園大 9−6 愛知学院大／国際武道大 0−2 京都産業大／九州産業大 0−1 福岡大

準々決勝：早稲田大 2−1 神戸学院大／中京大 0−5 環太平洋大／中央大 1−8 岐阜聖徳学園大／京都産業大 9−0 福岡大

準決勝：早稲田大 0−8 環太平洋大／岐阜聖徳学園大 2−4 京都産業大

決勝：環太平洋大 8−2 京都産業大

優勝：環太平洋大